

ウエイトリフティング

インターハイ77kg級 スナッチ種目優勝 110kg 成功

海津明誠高校3年 栗田 賢登



2年生のはじめ頃、国体ウエイトリフティング競技の少年強化指定選手に選んでいただいたときは、正直あまり意識はしていませんでした。ただ、早く記録を伸ばして強くなりたいたいと思っていた私にとって、合宿でたくさん練習できることが嬉しいと感じる程度でした。合宿では一緒に練習する成年選手から刺激を受け、先生にもきめ細かな指導をしていただき、着実に上達していると自分でも実感することができました。はじめはとにかく周りの選手に追いつきたい一心でした。そんな私が具体的な目標を持つようになったのは、2年生で出場した東海大会で負け、悔しい思いをしたときです。「次こそライバルの選手を倒したい」という思いで、フォームの改善と筋力の強化に取り組みました。国体が近づくにつれて本番を意識するようになり、「大会では自己新記録が出せるだろうか。」とそればかり考えるようになりました。夏のインターハイ

では幸運にもスナッチ競技で2位になり、国体では1位を狙いたいという思いもありました。しかし、基本的に私は挑戦者で、常に追う立場であるという意識で練習を続けました。本番その日は、あつという間にやってきました。大会当日までに出したいと考えていた記録が出せずにいた私は「もっと練習しておきたかった。」と焦る気持ちと戦っていました。当日の体調は決して悪くなく、スナッチ競技に少しは自信のあった私は、新記録に挑戦できることが楽しみでもありました。しかし、これまでに感じたことのない緊張からか、私の足は終始震えていました。

本番では監督の先生を信じ、自分の持てる力を精一杯発揮して、スナッチ競技で優勝、クリーン&ジャーク競技では自己新記録を達成できました。しかし、両競技ともに本当に取りたかった3本目の試技を成功できなかったことに悔しさが残ります。私は高校卒業後も大学で競技を続けます。今後はインカレ出場と、成年

の部で国体に出場することを目標に練習していきます。国体を通じて私は、多くの方々に支えられ競技できていたのだと身をもって知りました。最後まで見守ってくれた家族、競技のみならず学校生活や進路についてもご指導くださった先生、親身になってケアをしてくださったトレーナーさん、アドバイスを与え自信を持たせてくださった先輩方、応援してくれた友人や後輩達、そして、登下校中の私に声をかけてくださった地域の方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。最後に、部員と一緒に国体に出場した、園田智弘君の存在が私にとっては大きく、目標でありライバルであり続けた彼がいたからこそ、最後までやり遂げることができたのだと感謝しています。これまで何となく毎日を過ごしてきた私が、目標を持ち充実した日々が送れたのもこういった多くの方々の存在があったからです。今後も、自分のやりたいことができ、それを理解して支えてくださる方々がいることに感謝して毎日を過ごしていきたいと思っています。



養老町 陸上競技協会

第4回 ぎふ清流郡市 対抗駅伝競走大会報告

「ぎふ清流郡市対抗駅伝競走大会」は、「ぎふ清流国体」を契機に県内各地域相互の交流とスポーツに対する県民意識の高揚を図ると共に、国体選手や長距離選手の高揚・育成及び選手強化を目的として始まり、今回で4年目です。

岐阜県庁前をスタート、羽島文化センター折り返し2往復の42・195kmを小学生から40歳代までの年代別に男子7区間、女子5区間の計12区間で競走します。前回から郡市対抗となり養老郡も2回目の出場です。今回の出場チームは県内5郡と19市で、郡代表は養老の他に不破、揖斐、羽島、可児郡でした。

この駅伝は岐阜県出身の日本代表選手や大学駅伝、箱根駅伝出場選手も地元代表として出場します。実業団女子駅伝中日本予選会も同時開催の為、一流選手が間近で見ることが出来ます。陸上ファンなら非常に楽しみな大会です。大会は、清流国体、清流大会後の10月21日に開催。養老郡のゼッケンナンバー



は「30」、ユニフォームは紺地にオレンジで「養老」です。雲ひとつない晴天の中、1区の天野選手(大垣養老高校)が素晴らしいスタートを切り、4位で襷を渡しました。2区の瀧選手(高田中)が先頭集団を一気に抜き去り、1位で3区の酒井選手(養老小)へ。県庁前では区間毎の結果が順次貼り出され、2区で養老郡が1位と掲示されると驚きの声が上がりました。その後、走力のある各市代表チームが順当に順位を上げました。その中でも9区の近澤選手(広幡小)は区間賞の走りでした。最終12区の中山選手(大垣養老高校)は2時間26分36秒でゴールテープを切り、順位は13位。郡の中ではトップです。昨年の18位から躍進して記録も5分以上も短縮しました。優勝は大垣市で2連覇。閉会式では近澤選手が男女小学生の中から1名に与えられる優秀選手賞に選ば

れました。チームとしての練習がなかなかできない中、代表選手は十二分に力を発揮してくれました。コーチや補欠選手も選手の付き添いとして活躍してくれました。養老郡は一郡一町なので他の郡市と比べると選手選考は大変ですが以前から岐阜県代表選手を輩出している地域性もあります。養老町陸上競技協会では今後も少年団や中学校、高校、一般競技者と連携を図っていきます。今回は8位入賞までにあと2分30秒短縮が必要でした。郡代表として初の8位入賞目指して次回も頑張ります。

第12回全国障害者スポーツ大会・清流大会お礼

田中 稔

今年岐阜県で行われました、岐阜国体の総合成績が天皇杯・皇后杯と輝かしい成績を収められた後に、東日本大震災復興支援、第12回全国障がい者スポーツ大会、ぎふ清流大会が行われました。

私たちはプレッシャーを受けた中で大会であり、今までの練習成果を十分に発揮しようと思っていました。が、出場前日に自分自身の不注意で腰を痛めてしまい、出場当日の立幅飛びや100m走が思うように競技ができるか



不安でいっぱいでしたが、一般の沢山の方や町身障役員・職場の上司・職員組合の幹部の方々による、応援幕や2階の前列等でご声援を頂きましたおかげで、立幅飛び(優勝)100m走(3位)を獲得することができ、厚くお礼申し上げます。

また、立幅飛びが優勝したことに併い岐阜県知事様から、岐阜県文化、スポーツ功績賞を頂きましたことは、私にとってこの上もない喜びと、スポーツ大会に出場させていただきましたことに感謝の気持ちでいっぱいです。今後も体力の維持向上と障害者スポーツの発展に努めたいと思いますので、皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。誠にありがとうございました。



柿本 妙子

ろう学校在籍中、いろんなスポーツをやっていました。特に陸上は毎日欠かさず練習をし、高校、専攻科に在籍中に5年連続全国聾学校陸上大会に参加しました。学校卒業後、なかなかスポーツをする機会がない中、母校の恩師から「ぎふ清流大会があるから、参加したらどうか?」と声を掛けていただきました。13年のブランク、あまり練習できない、子供を犠牲にしないかなど悩みはありましたが、子供が「やっといういよ」と背中を押してくれて、参加する決心がつかしました。

大会に向けて、月に2回の練習会、強化合宿にできるだけ参加し、仲間と励ましあいながら頑張りました。地元の大大会、たくさんの応援にプレッシャーがありました。が、メダルを取れ、子供も喜んでくれました。参加して本当に良かったと思います。たくさんの応援ありがとうございました。

